

オンライン診療は、 地域医療をどう変えるのか



和泉誠人先生

厚生労働省医政局医事課 医師等医療従事者働き方改革推進室長

和泉誠人(いずみ まさと)先生 プロフィール

2013年岡山大学医学部卒業。静岡県立こども病院で小児科研修の後、2018年厚生労働省入省。保険局医療介護連携政策課・医療課、内閣府、健康・生活衛生局感染症対策部予防接種課などを経て、2024年9月より厚生労働省医政局医事課 医師等医療従事者働き方改革推進室長。



間中勝則先生

厚生労働省医政局総務課 オンライン診療推進専門官

間中勝則(まなか かつのり)先生 プロフィール

2004年東京大学医学部卒業。2013年東京大学健康保健推進センター助教、2014年東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科助教、2024年4月より厚生労働省医政局総務課 オンライン診療推進専門官。

聞き手



古城隆雄先生

埼玉県立大学保健医療福祉学部 教授

古城隆雄(こじょう たかお)先生 プロフィール

2011年慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 博士号(政策・メディア)取得。
2010年自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門助教、講師、2018年東海大学健康学部准教授を経て、2025年より埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科教授。



原田昌範先生

山口県立総合医療センターへき地医療支援センター センター長

原田昌範(はらだ まさのり)先生 プロフィール

2000年自治医科大学を卒業後、山口県の離島へき地で勤務。2010年自治医科大学地域医療学センターを経て、2011年から現職。山口県コロナ対策室、防府保健所長、へき地医療支援機構へき地医療専任担当官も担当。2019年から厚生労働科学特別研究事業(オンライン診療)の班長。2018年から公益社団法人地域医療振興協会理事。2024年度へき地医療貢献者表彰を受賞。2025年自治医科大学地域医学センター公衆衛生学講師、内閣府SIP社会実装アドバイザー、周南公立大学客員教授にも就任。2026年国土交通省国土審議会専門委員。

複雑な医療の仕組みを知りたいという思いから

古城隆雄 今日、厚生労働省から和泉誠人先生、間中勝則先生にお越しいただき、原田昌範先生と私の二人でお話を伺います。私が進行役を務めますので、まず私から自己紹介しますと、私は医師ではなく、社会科学系の医療政策を専門にしている研究者です。原田先生とは、学生時代の疫学の泊まり込みセミナーで一緒にして以来、もう16、17年のお付き合いになります。

原田昌範 私が離島に勤めていまして、宮城県の鳴子温泉で開かれたセミナーで同じ部屋になったのです。三十代のいいおじさんたちが、和室十畳ほどの部屋に6人、いきなり押し込まれて寝食を共にしたのが始まりでした(笑)。その後、古城隆雄先生はすぐ離島にも視察に来てくださって、自治医科大学の教員に就任され、私が1年ほど国内留学で母校に戻った時には一緒に働きました。

和泉誠人 恐ろしい会ですね(笑)。でも、そこで出会われたわけですね。

古城 はい(笑)。では早速、原田先生から、今回の特集号と座談会の趣旨をご説明いただけますか。

原田 今回の特集では、医療法改正が大きなテーマです。私はこれまでも『月刊地域医学』で、厚生労働科学研究などに関連する特集を1年から1年半に一度ぐらい企画してきました。今回は医療法改正に加え、診療科偏在の議論もあります。特集記事としては、医療法改正、診療報酬改定、今回の事業や研究班の紹介、D to P with Nの深

掘りなどを取り上げる予定です。この座談会では、その前段として、制度の話だけでなく、それが地域医療の現場にどうつながるのかを伺いたいと思っています。

古城 それではお二人から、簡単なご経歴と厚労省に入られたきっかけを紹介していただきたいと思います。

和泉 私は2013年に岡山大学医学部を卒業しました。医系技官という仕事には学生の頃から関心がありました。岡山大学の疫学教室に、医系技官を辞めて教員になられたOBの方がいらっしゃって、その方のお話を聞いたのがきっかけです。もともと、医学部に行くのか、もっと多くの人を助けるなら製薬業界の方がいいのか、いろいろ考えていました。結局、医学部に進みましたが、漠然と「大きなインパクトのある仕事がしたい」という思いがあり、医系技官という行政官の仕事を知って「いいな」と思ったのです。5年生か6年生の時には、厚労省の医政局総務課に一度インターンシップにも行きました。そこで統合医療というものを知り、「統合医療って一体何だ?」と思いながらも、面白そうだなという印象はありました。ただ、いきなり行政に行くのではなく臨床をしてからと思っていたので、卒後は臨床研修を受けました。

古城 研修はどこでされたのですか?

和泉 病院選びも少し変わっていて、私は5年で必ず臨床を辞めようと思っていたので、とりあえず忙しいところに行こうと、初期研修の2年間は湘南藤沢徳洲会病院に行きました。指導医が少なく一人あたりの負荷が大きい病院で、高齢者救急を本当にたくさん診ました。その後、静岡県立こども病院の小児科で3年間、後期研修をしました。そこで改めて思ったのは、小児科